

# レギュラトリーサイエンス新技術開発事業 「高病原性鳥インフルエンザの野生動物による感染の 確認及び消毒方法の開発」 の施策への活用について

農林水産省消費・安全局動物衛生課  
課長補佐(防疫企画班担当)  
木下 祐一

1

## 研究の背景(鳥インフルエンザとは?)

### ◎鳥インフルエンザとは?

A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の病気。

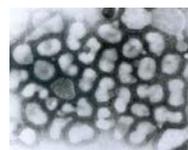


写真: Dr. Erskine Palmer,  
Centers for Disease  
Control and Prevention  
Public Health Image  
Library

### ◎高病原性鳥インフルエンザとは?

家きん(鶏や七面鳥など)に対する病原性やウイルスの型によって、  
高病原性鳥インフルエンザ、低病原性鳥インフルエンザなどに区別。  
家きんが高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染するとその多くが死亡。



甚急性死亡例、明らかな肉眼病変なし

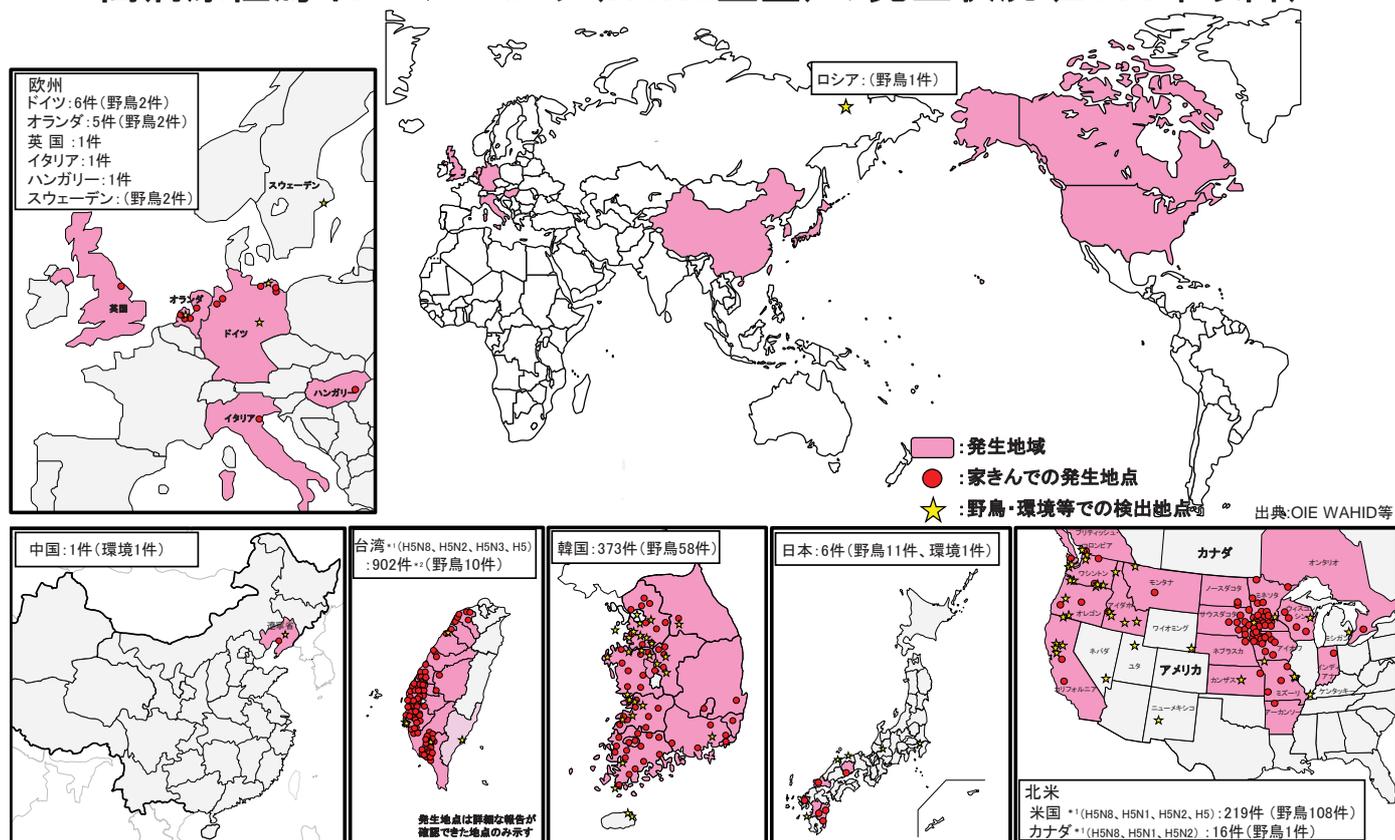
高病原性鳥インフルエンザは、その伝播力の強さ及び高致死性から、  
ひとたびまん延すれば、

- ① 養鶏産業に及ぼす影響が甚大であるほか、
- ② 国民への鶏肉及び鶏卵の安定供給を脅かし、
- ③ 国際的にも、高病原性鳥インフルエンザの非清浄国として信用を失うおそれがある。

2

# 研究の背景(世界的な鳥インフルエンザの発生)

## 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)の発生状況(2014年以降)



注: 本図は発生の有無を示したもので、その後の清浄性確認については記載していない。また、本図の縮尺は一致していない。  
 \*1 米国、カナダ及び台湾で確認されたH5、H5N1、H5N2及びH5N3亜型のウイルスのHA遺伝子はユーラシア系統のH5N8亜型ウイルス由来と考えられる。  
 \*2 低病原性鳥インフルエンザの発生も含まれる

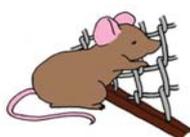
2015年10月26日現在

3

# 研究の背景(農場への侵入防止・発生時のまん延防止)

## ◎ ねずみ等の小型野生動物によるウイルス伝播の可能性

平成22年度、我が国において、9県24農場で高病原性鳥インフルエンザが発生。この際の疫学調査において、野鳥に加えて、ねずみ等の小型野生動物がウイルス伝播に関与した可能性が示唆されており、小型野生動物がウイルスの感染源となり得るかどうかを確認する必要。



野鳥・野生動物対策  
 絵: 岡本絵梨佳(北海道十勝家保)



踏込消毒槽

## ◎ 厳寒期の寒冷地における適切な消毒方法の開発

本病が最も発生しやすい冬季の寒冷地における消毒方法として、雪上及び氷上での消毒薬の効果や不凍液を添加した消毒薬の効果については不明な点が多く、有効な消毒方法の開発が必要。

4

本研究成果は、家きんの飼養農場における野生動物対策の重要性を裏付ける知見。また、冬季における有効な消毒方法として、高病原性鳥インフルエンザ対策に活用。

- ◎ 平成26年度冬季における高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査報告書（平成27年9月取りまとめ）

ウイルスの農場への侵入経路について、本研究成果を踏まえて考察。

- ◎ 平成27年度における高病原性鳥インフルエンザ等の防疫対策の強化について（平成27年9月都道府県あて通知）

渡り鳥の本格的な飛来シーズンを迎えるに当たっての強化通知において、本研究成果を踏まえて、「小型の野生動物が侵入しうる隙間がないか、普段見落としがちな侵入経路も詳細に点検」するよう指導。

- ◎ 全国家畜保健衛生業績発表会（平成27年4月）

全国の家畜防疫員（家畜保健衛生所の獣医師職員等）を対象とした発表会において、特別講演として、研究成果を発表。